

## 刊行の辞

大東文化大学経済研究所所長 上遠野武司

今世紀の初めの20年が経過した時点で世界に激震が走りました。感染症蔓延と武力侵略です。震源は前世紀社会主義だった覇権国です。それらの国は力による弾圧と支配によって現状変更を試み続けています。人権無視、人命軽視のうえ国際ルールを恣意的に解釈して邁進する勢力を止め諫めることができる国はなく、多くの人々が不正義と暴力で苦しめられています。卑劣で凶悪な力の行使を前に私たちは無力です。

欧州にブラッドランド（流血地帯）と呼ばれる一帯があります。ソ連とナチスドイツによる殺戮政策の舞台でした。1939年独ソ外相によるモロトフ＝リッペントロップ協定でひかれた境界線周辺です。いまのポーランド、ウクライナ、ベラルーシ、バルト三国、ロシア西部の地域に当たります。ある推計では、1933年から1945年までの12年間で婦女子を含む1,400万人以上の非戦闘員が惨殺されました。ソ連は農民の大量餓死を承知で穀物を強制的に収奪し強制移住、強制労働させる政策を進めました。ウクライナでは翌年の作付けのための種もみまで取り上げられたため、300万人が餓死させられたとされます。

2022年2月24日、ロシアはまたウクライナの人々の生命を奪い始めました。ロシアの侵攻に対するウクライナの抵抗が戦争を長引かせ犠牲を増大させているとする指摘があります。しかし、歴史のどこをみてもウクライナ国民が抵抗をやめる理由は見当たりません。戦争終結にはロシアによる戦闘行為停止こそが必要なのです。

東西冷戦終結後、相互の理解と繁栄に経済的関係強化が有効と西側は見てきました。ところが、旧東側勢力は別の世界を夢見ていたのです。それは力と恐怖で支配する世界です。

ネット空間への偽情報、誤情報の拡散、メディアの情報制限、言論弾圧によって自国だけでなく他国の人々まで支配しようとしています。途上国にインフラ整備を持ち掛けては債務の罠にはめています。その上で、隣国や周辺国の力の間隙や空白箇所を突き、不正義や軍事力で国境線変更、領土拡大を試みています。欧州諸国はロシア産天然ガスへの依存を高め結果的にロシアの影響力を増大させてしまいました。これが力の行使への過度の自信をロシア主導者に与えてしまったのかもしれませんが。

大東文化大学経済研究所は1987年に設立されて以来、研究員の研究活動を支援しそれらの研究成果を公表してきました。この『経済研究』第36号には7篇の論文を掲載しています。今後も研究体制の整備、研究成果の公表に積極的に取り組み一層の研究の深化を図って参ります。引き続きご理解とご協力を賜うようお願い申し上げます。